

大阪大学工業会海外交流助成金 「渡航報告」

〔教員の部〕

海外渡航報告

大阪大学大学院工学研究科
環境・エネルギー工学専攻 環境設計情報学領域
福田 知弘

5月11・12日に、バーレーンのマナーマで開催された4th ASCAAD (Arab Society for Computer Aided Architectural Design) Conferenceに参加した。関西空港からカタール・ドーハ経由でバーレーンまで16時間。新型インフルエンザ対策が叫ばれる中(中東では感染国はなく、渡航中の問題は全く無し)、機中泊2泊、現地2泊と中々タイトな渡航であった。

4th ASCAAD Conferenceは、コンピュータ支援による建築・都市設計をテーマとしたCAAD (Computer Aided Architectural Design) Conferenceの中東地域を対象とした会議である。他の地域では、北米にACADIA、南米にSIGRADI、欧州にECAADE、アジアにCAADRIAがある。参加者は、中東のみならず、欧州、北米、アジアなど幅広い。参加者は、バーレーン国務大臣はじめバーレーン大学の教員学生も多数参加され、100名近くに上っていた。

本会議のテーマは「Digitizing Architecture - Formalization & Content -」。論文のテーマは、Design Education, Design Methods, Digital Design Tools, VR Applicationなど。投稿数、採択率は下記。

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| ・ abstract 提出 | : 78 (24カ国) |
| ・ うち、abstract review 通過 | : 72 |
| ・ うち、full paper review 提出 | : 54 |
| ・ うち、full paper review 通過 | : 42 |
| ・ うち、最終稿通過 | : 35 (35 / 78 = 44.9 %) |
| ・ 発表者数 | : 19 (19 / 35 = 54.3 %) |

発表者数が54.3%と珍しく低い、多くの不参加理由として昨今の経済不況により渡航費が確保できなかった事だと学会事務局から報告があった。また、メキシコの研究者1名は、新型インフルエンザの影響でビザが取得できなかったそうである。

本会議において、私は「Analysis of a Mixed Reality Display for Outdoor and Multi-user Implementation」という研究題目で、20分間プレゼンテーションした。発表は発表初日のトップバッターであり少々緊張したが、その後の全体討議やTea breakを通じて多くの研究者の方々とインタラクティブに議論することができた。また、私にとってアラブの国に訪問すること自体、初めての経験。イスラム教の影響を強く受けた、文化、生活習慣、教育、服装、食事など、全ての面において自国との様々な違いを体感することができた。

最後になりましたが、海外交流助成金を援助して頂きました大阪大学工業会に深く感謝致します。ありがとうございました。



写真 ASCAAD Conference 風景(左)、懇親会風景(中)、
世界初風力発電付きビル、バーレーン・ワールド・トレードセンター(右)

海外交流助成金「渡航報告」は、提出されたままを掲載しております。

海外渡航記

工学研究科応用化学専攻

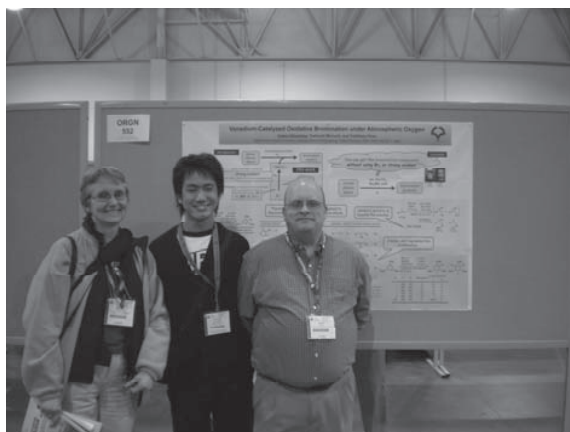
D3 菊嶋 孝太郎

3月23日から27日にアメリカ、ソルトレイクシティにおいて237th ACS National Meetingがあった。アメリカ化学会によるおそらく米国内最大の化学会である。化学全般であるので、非常に多くの研究者が参加し、複数の会議場やホテルを会場として使うほどであった。

ソルトレイクシティはどちらかという
と田舎であり、一日あれば中心地は回れるほどである。街から近い位置に雪で覆われた山があり、冬季オリンピック開催地を納得できる。気温は0度から10度と低く、時には雪も降った。桜の開花が待ち遠しい日本人にとって季節が戻ったようであった。

今回のメインである学会についても触れておく必要がある。参加者のほとんどはアメリカ人であり、話している内容の約半分は聞き取れない。しかし、化学は化学式や構造式を見ればほとんど理解できる。自身の発表はポスター発表であった。題目は ” Vanadium-Catalyzed Oxidative Bromination Reaction under Atmospheric Oxygen” 、つまり基本的かつ重要な化学反応である臭素化反応の新規手法の開発である。多くの研究者（得て有機化学や薬学系）が訪れ、興味を示してくれた。また、自信も他のポスター発表を見回り、多くの情報を得た。多少の困難はあったものの、英語で討論する機会がたくさんあった。ポスター発表予定時間の午後7時から9時を過ぎてポスターを掲示していると、バナジウム化学の大御所である D. C. Crans 教授が来てくれた。実は彼女（女性教授）の口頭発表後に話しかけることに成功し、自己紹介を兼ねてポスター発表があることを伝えておいた。すると、専門分野ではないにもかかわらず（彼女の専門は無機化学）、わざわざ有機化学・薬学系ポスター会場に来てくださったのである。待っていてよかった！

余談ではあるが、今回の渡航において世界で活躍するスケート選手、浅田真央さんに会った。いつしか私も化学という分野において世界で活躍したいと思った。世界の狭さと広さを同時に感じた旅であると共に、私にとって世界への第一歩となる非常に有意義な海外渡航であった。



(上) 遠くから見たソルトレイクシティ中心部
(下) Crans 教授（左）と私と Smee 博士（右）と発表ポスター。

海外渡航報告書

6th International Conference High Temperature Capillarity に参加して

大阪大学・工・マテリアル生産科学専攻
博士後期課程2年 福田 敦

1. はじめに

2009年5月5日から9日までの4日間にわたってギリシャのアテネで行われた6th International Conference High Temperature Capillarity (以下、HTC-2009)にポスター発表で参加した。私にとって初めての国際会議参加、生まれて二度目の海外渡航である。この時期はちょうど豚インフルエンザが騒がれた翌週にあたり、わが大阪大学では迅速な審議の下、感染国からの帰国後に自宅待機一週間が定められていたため、相次いで担当教官らが学会参加をキャンセルされ、私もその参加・不参加の選択を迫られた。ギリシャへの航路にトルコでの乗り継ぎを予定していた私は、リスクがあろうと、この機会をふいにするのは惜しく、腹を決め参加を固持した。この際、最も苦勞したのは親の説得であった。

2. HTC-2009

HTC-2009は高温での濡れ性・毛管現象を始めとして高温の界面現象を専門とする国際会議である。今回は1994年に開催され

た第一回から数えて六回目にあたり、ギリシャのアテネのHotel Metropolitanで開催された。

3. 感想

発表は私の研究と一致するものやまたは近いものが多く、みな密度の濃いものであったため、どの研究も非常に興味深く、英語を苦手とする私でも良い刺激となったし、研究テーマに対して興味の幅が広がった。

自分の研究分野を同じくする、海外の若い研究者と話せたことや、また案外に接することのない国内の先生方や学生と接して、研究のここの話ができたことや、またそれ以外にも研究者の先輩として生き方、人の生き方の話をいただけたことは、この先何度だって思い出すことになるだろう充実した時間であった。

謝辞

今回の海外渡航・学会参加に当たり、費用をご支援頂きました大阪大学工業会に深く感謝申し上げます、また今後一会員として還元していけるよう努力していこうと思えます。



写真：(左から) ポスター発表、学会会場、リカベトスの丘から見たアクロポリス。